

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	由布院サステナブルツーリズムプロジェクト		
(2) 実施団体名	由布院サステナブルツーリズム協議会	(3) 対象地域	大分県由布市由布院地域
(4) 代表団体名	由布院温泉観光協会	(5) 推薦団体名	由布市

(6)実施した取組の内容	取組①	風の食卓地消地産モデル事業	
	実施主体	由布院温泉旅館組合・由布院温泉観光協会	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:料理研究会等による伝統食の解釈、新メニューの作成、地域内流通促進のための生産者との情報交換会等 ・実施時期:20年10月情報交換会、12月メニュー研修会等実施 ・実施場所:クアージュゆふいん、国民宿舎由布山荘ほか ・取組の目的:「地消地産」の観点での農産物流通のため、情報を収集しメニュー研究して、マッチングを図りWIN-WINな関係を作 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:料理研究会等による伝統食の講習会、試食会、地域内流通促進のための生産者との情報交換会、視察研修会等 ・実施時期:20年11月～21年2月に情報交換会、講習会、研修会等実施 ・実施場所:国民宿舎由布山荘ほか ・取組の結果:生産者、料理人の意見交換会・試食会(32名参加)、伝統食講習会(100名参加)等を実施。食卓起点の流通促進のための関係を構築
	取組②	景観コンセンサス形成事業	
	実施主体	由布院温泉観光協会	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:景観シミュレーション、コンテスト、シンポジウムの開催 ・実施時期:20年10月～1月景観シミュレーション、20年10月～12月コンテスト開催、21年2月シンポジウム開催 ・実施場所:クアージュゆふいんほか ・取組の目的:行政や自治組織等と連携し、よりよい景観形成の 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:商店街と連携した景観シミュレーション、ワークショップの開催、また建築環境のデザインコンクール、シンポジウム等の開催 ・実施時期:20年12月シミュレーション、20年11月～2月ワークショップ等開催 ・実施場所:クアージュゆふいん、湯布院町商工会ほか ・取組の結果:行政や商店街等と連携して景観に関する議論を深め、改善事例も出て景観形成に関するコンセンサス形成を図ることができた
	取組③	パーク&アートバスライド事業	
	実施主体	由布院温泉観光協会	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:周辺部地域やアート施設、駐車場等を巡るバスの運行 ・実施時期:20年10～11月 ・実施場所:湯布院町内 ・取組の目的:交通社会実験を踏まえて、地域内の魅力地域と周辺部の駐車場等を結び、二次交通のあり方について方向性を見 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:周辺部の地域やアート施設、駐車場等を巡るアートバスの運行 ・実施時期:21年2月 ・実施場所:湯布院町内 ・取組の結果:公共交通機関来訪者や自家用車からの乗り換え者に利便を図った。懸案であった二次交通の今後の展開についてのデータが得られた 	
取組④	コンシェルジェ情報提供事業		
実施主体	由布院温泉観光協会		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:ホームページ、サインとの連動した情報発信実験、コンシェルジェ型情報提供、多言語対応資料の作成 ・実施時期:20年10月～21年1月 ・実施場所:湯布院町内 ・取組の目的:ホームページ、マップ、サインが連動し多言語対応可能で顧客ニーズにそった情報提供の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:ベースマップ作成、ホームページ、サインとの連動実験、コンシェルジェ型情報提供、多言語対応資料の作成 ・実施時期:20年10月～21年3月 ・実施場所:湯布院町内 ・取組の結果:正確なベースマップによりホームページ等との連動が進み、情報の幅が広がった。また多言語対応資料によりインバウンド体制が整った 	
取組⑤	ものづくり・コミュニティビジネス支援事業		
実施主体	湯布院町商工会・由布院温泉観光協会		
	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	

(6)実施した取組の内容	実施内容、実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:デザイン性のある商品開発、テストマーケティング、人材育成講座の開設 ・実施時期:20年10月~21年2月 ・実施場所:クアージュゆふいん ・取組の目的:由布院らしい商品開発のため、デザイン性のよい新規商品を開発できる体制を作り、経済波及効果を狙ってゆく 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:由布院デザインシステムの構築、デザイン性に優れる新規商品開発、コミュニティビジネスのための人材育成事業 ・実施時期:21年1月~3月 ・実施場所:湯布院町内 ・取組の結果:観光業を中心にした異業種連携とデザインシステムにより新規商品開発体制が整った
	取組⑥	情報発信システム構築事業	
	実施主体	由布院温泉観光協会	
(7)実施体制	実施内容、実施結果	<p>当初提案により予定していた計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:由布院のまちづくり情報や地域情報の収集と加工、情報提供システムの構築と資料整備 ・実施時期:20年10月~21年2月 ・実施場所:由布院地域 ・取組の目的:由布院の地域資源の情報発信能力を高め、地域資源を結んで交流の基礎を築く 	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:由布院発の情報発信のため公式ガイドブックの編集、観光まちづくり情報の収集 ・実施時期:20年10月~3月 ・実施場所:湯布院町 ・取組の結果:由布院独自の情報により初の公式ガイドを編集、同時にこれまでのまちづくり情報を収集し、新たな滞在ライフスタイルを提案した
		平成20年度の取組実施における体制・役割分担	取組の実施を踏まえた反省点
(8)取組により得られた成果	○成果1→	由布院の総体の魅力を掘り起こしそれらを味わう仕組みをつくり、宿泊総数を増大させ、連泊比率(宿泊者の2泊以上の割合)を向上させる	
		<p>H19</p> <p>(宿泊総数)90.4万人(連泊比率)14.2%</p>	<p>H20(当初予定していた目標)</p> <p>(宿泊総数)92.0万人(連泊比率)15.0%</p>
	<p>H20(実際に得られた成果)</p> <p>(宿泊総数)86.1万人(連泊比率)19.9%</p> <p>景観シミュレーションやワークショップ、シンポジウム等を行って、地域に居心地よく滞在できるための景観形成のポイントが明らかになり、アートバスやわかりやすいマップ、ホームページ等により地域の魅力はより伝えやすくなった。その結果、宿泊総数は20年度後半の経済不況等の影響もあって減少したものの、地域に滞在する連泊比率は向上した。</p>		
	○成果2→	観光業を基軸にもものづくりや新たな産業・サービスで相乗効果を発揮し、地域総生産を増大させ、情報発信力、経済波及効果を向上させる	
		<p>H19</p> <p>(観光消費額)3,655円(ホームページアクセス数)87.9万</p>	<p>H20(当初予定していた目標)</p> <p>(観光消費額)3,700円(ホームページアクセス数)90.0万</p>
	<p>H20(実際に得られた成果)</p> <p>(観光消費額)推計中(ホームページアクセス数)98.0万</p> <p>風の食卓地産モデル事業で伝統食やメニューの研究が進み観光業と農家との連携も深まった。また新たな由布院デザインシステムにより観光業を中心に異業種で連携できる体制が整い、由布院からの情報発信は手段も量も拡大することができた。その結果、観光消費額は推計中であり消費の低迷傾向は否めないものの、ホームページアクセス数は大きく増大した。</p>		

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地消地産事業では地域内流通のベースを固めることができたが、さらなる付加価値の設定と滞在向けメニューの開発が課題となった。 ・景観事業では景観シミュレーションで町の将来像を共有でき、改善事例も早速始まり成果があった。ただシンポジウム等で景観の課題が指摘された。 ・アートバス事業では、長年の懸案であった二次交通改善の端緒をつかみ地域内の連携も深まった。ただ採算性を取れる段階まで時間を要する。 ・情報提供事業では、正確な地図を作成しこれとホームページ等を連携させて厚みのある情報提供ができた。ただ情報拠点の必要性が明らかになった。 ・ものづくり支援事業ではデザインシステムも始動し、地域由来の商品開発が可能となった。また高度化のための人材育成システムはさらに重要である。 ・情報システム構築事業では、由布院発の公式ガイドブックも編集でき、まちづくり情報が整理され利用しやすい体制ができた。 ・全体を通じて由布院本来の資源である温泉と自然を生かして上記事業と連動し、お客様の要望の多い滞在型健康づくりプランの作成も急がれる。 	
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地消地産レストランの運営実験 5. 定期的な市場(ゆふいんバザール)の開催 2. 看板モデルデザインの検討と参加型コミュニティガーデン実証実験 3. パーク&アートバスライド事業の継続実施と公共交通利用促進策の実施 4. コンシェルジュ情報センター運営と滞在型ビジネスモデル実験、 6. 由布院情報発信システムを用いた観光まちづくり講座開設 <p>当初提案になし</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地消地産情報物流システムの構築と定期的な市場(ゆふいんバザール)の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 由布院温泉観光協会、・事業期間: 21年7月～22年2月 ・地域で消費する食材をさらに地域で生産し流通させるため、情報流通を先行させ同時に物流システムを構築する。またその見本市として定期的な市場を開催する。 [活用を希望する制度: 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額600万円)] 2. 看板・ファサードデザイン検討と官民連携型コミュニティガーデン実証実験 <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 由布院温泉観光協会、・事業期間: 21年9月～22年3月 ・店舗群の看板やファサードを一定のコンセンサスのもとシミュレーションやデザインを行い、よりよい景観形成の事例を検討し、同時にコミュニティガーデンを整備し景観向上を目指す。 [活用を希望する制度: 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額500万円)] 3. 環境に配慮したパーク&アートバスライド事業の継続実施と公共交通利用策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 由布院温泉観光協会、・実施期間: 21年7月～11月 ・環境配慮型のアートバスを運行し、周辺地域の活性化を図りながら公共交通利用、自家用車からの転換実験を実施する。 [活用を希望する制度: 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額500万円)] 4. 総合情報センターの運営と滞在型ビジネスモデル・人材育成システム実証実験 <ul style="list-style-type: none"> 実施主体: 由布院温泉観光協会、・実施期間: 21年7月～22年3月 ・サステナブルツーリズムのため、旅と暮らしに関する情報をワンストップで入手できる総合情報センターを運営、また滞在型ビジネスと人材育成の実証実験を実施する。 [活用を希望する制度: 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額800万円)] 5. 多様性のある滞在型健康づくりメニュー「クアオルトプラン」実証実験 <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 由布院温泉旅館組合、・実施期間: 21年7月～22年2月 ・上記取り組みと連動し、全国の先進地(上山、熊野等)と情報共有しながら、地形療法による滞在型健康づくりメニュー「クアオルトプラン」の実証実験、人材育成事業を実施する。 [活用を希望する制度: 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額600万円)]

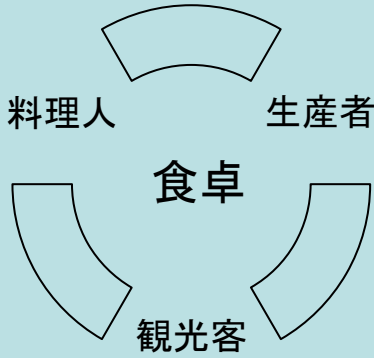
◆主な実施取組の内容◆

風の食卓地産地消モデル事業

年間百万人近くのお客様が宿泊する由布院で、使用する食材を可能な限り地域で生産することを目指している。そのために食卓を中心に人と食材と情報が出会う仕組みを作り、様々な実験事業を展開した。

- ①生産者、料理人等の意見交換会、試食会の実施(平成20年12月)
- ②地域伝統食、新メニュー講習会、研修会の開催(平成21年1月)
- ③諸費側と生産側それぞれのデータ収集とマッチング検討

食卓を中心に地域の中でWIN-WINな関係を構築



生産者との意見交換会



地域伝統食の講習会

景観コンセンサス形成事業

自然風景やごちんまりとたたずまいが美しい由布院であるが、乱開発や派手な店舗・看板等で景観が壊れつつある。美しい景観とは何かを議論し、いくつかの手法を組み合わせることでコンセンサス形成を図った。

- ①景観シミュレーション、商店街ワークショップの実施(平成20年11月)
- ②景観シミュレーション、アドバイスと連動した景観改良事例
- ③景観に関するコンクール、シンポジウムの開催(平成21年1、2月)



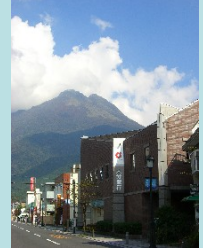
シミュレーション実施



商店街ワークショップ



景観改良事例



上記取組みのほかに、パーク&アートバスライド事業、マップ・サインと連動したコンシェルジュ情報提供事業、ものづくり・コミュニティビジネス支援事業、由布院情報発信システム構築事業等全6取組みを実施し、サステナブルなツーリズムを多面的に展開した。

◆取組実施による成果・今後の展開◆

平成21年度以降は、20年度の成果を踏まえて継続する4取組と新規1取組を以下の手法で実施し、サステナブルな体制を作り上げる。
 ①地産地消情報物流システムの構築と定期的な市場(ゆふいんバザール)の開催、②看板・ファサードデザイン検討と官民連携型コミュニティガーデン実証実験、③環境に配慮したパーク&アートバスライド事業の継続実施と公共交通利用策の実施、④総合情報センターの運営と滞在型ビジネスモデル・人材育成システム実証実験、⑤多様性のある滞在型健康づくりメニュー「クアオルトプラン」実証実験